

生活科部会 理論 研修会 終了報告

テーマ	新学習指導要領における生活科の実践について	
日時	平成30年 7月 31日(火)	
会場	大麻公民館	
講師	<p style="text-align: center;">大室 道夫 氏</p> <p style="text-align: center;">(肩書:)藤女子大学 人間生活学部 保育学科 教授</p>	
参加者	約 18名	
研修会 の 様子		<p>石教研生活科部会では、毎年夏季休業の初期に研修会を行っています。</p> <p>隔年で理論研修会と実技研修会を交互に行っており、昨年は「札幌円山動物園」での実技研修会でした。</p> <p>今年は、藤女子大学から、大室 道夫教授を講師としてお招きしました。</p>
		<p>今回の研修会は、「新学習指導要領における生活科の実践」をテーマに講演していただきましたが、参加者の中には、生活科が初めてという先生方もいらっしゃいましたので、まずは生活科誕生の経緯から現行指導要領の改訂までの変遷を踏まえて「生活科とは何か」という説明がありました。</p>
		<p>また、スタートカリキュラムについても触れ、幼児教育から初等教育への接続の中核を担う生活科の重要性について話がありました。</p> <p>生活科部会の研究主題でもある対象への愛着を育むために重要なことについては、具体的な体験や活動を通して繰り返し対象と向き合うことで自分の生活圏の外側にあった対象への愛着が高まり、自己の生活圏が広がることにつながると述べていました。</p>



このような繰り返し対象と向き合う活動や振り返りの時間を確保していくためには、しっかりとした単元計画が必要であり、体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視しながら計画をしていくことが大切であることがわかりました。



さらに、教師の支援については、子どもへの意図的な言葉かけが必要であるとして、1単位時間の中で目指すことものにに向けて「共感する」「引き出す」「問い返す」「価値づける」などの言葉かけを意図的に行うことが必要だと述べていました。

充実した内容の講義であり、多くの参加者から大変有意義だったとの評価をいただきました。

次年度実技研修会を予定しています。ぜひ多くの方に参加していただきたいと思います。